



早いもので、2024年も残り3カ月となりました。近年は秋が短くなったとよく言われています。1年の中で最も過ごしやすいと思われる月のひとつの10月、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。さて、今月号のカスタネット通信は7月から9月にかけて開催された、セミナーのご紹介です。

認定言語聴覚士講習会



日本言語聴覚士協会のホームページによると、**言語聴覚士(ST)の仕事**は以下のように書かれています。

言語障害(失語症、構音障害、高次脳機能障害)や聴覚障害、ことばの発達の遅れ、声や発音の障害など、多岐にわたることばによるコミュニケーションの問題の本質や発現メカニズムを明らかにし、対処法を見出すために検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行う。

タイトルになっている**認定言語聴覚士講習会**は、STの仕事の質の向上を図り社会に貢献することを目的として、摂食嚥下障害、失語・高次脳機能障害、言語発達障害、聴覚障害、成人発声発語障害、吃音・小児構音障害の6領域で開催されています。

今年は私たちが実行委員として参加している聴覚障害領域の認定言語聴覚士講習会が3年ぶりに開催されました。前回の2021年の講習会と大きく異なるのは、6日間の講習のうち、2日はオンラインではなく対面方式で実施したことです。

オンラインで実施された4日間の講習では、遺伝子診断、補聴器適合、人工内耳の調整、小児難聴から高齢期難聴に至るまで、全19コマの幅広い領域に渡る講義が行われました。

私たちはオンラインでの講義の他、「**成人難聴者のコミュニケーション:評価と指導・訓練(演習)**」という対面での講義を担当しました。

この講義の主な目的は以下の2つです。

- ① 難聴がある人とコミュニケーションを取るときに、聞き誤りや聞き逃しなどの問題が生じる要因を理解する
- ② それらの問題を軽減するための工夫(コミュニケーションストラテジー)を学ぶ



難聴のある人との会話時の工夫

話しをする時は、口元を見せて！

カフェで友人と会話しているが、友人が頬杖をついて話すのでことばが聞き取りにくい。



話題を変える時は、先に伝えて！

急に話題をかえる友人との会話についていけない、困っている。



話し始める前に、名前を呼んで！

スマホを見ている時、友人が話しかけてきた。話の内容が分からず、聞いてなかったの？と怒られた。



静かな場所で話しをしよう！

友人が色々なものをいじって音を出しながら話すので、よく聞き取れなくて困る。



講義では、対話者の口元が見えない、急に話題が変わって何の話か分からない、急に話しかけられて話題についていけない、雑音が多くてことばが聞き取りにくい、など難聴のある人にとって聞き取りにくいと思われる場面をいくつか挙げ、その状況を改善するための工夫を受講者に考えてもらいました。



もうひとつ、私たちが担当した対面での講義は「補聴援助機器(講義・演習)」です。補聴器や人工内耳は難聴のある人の助けにはなりますが、難聴の根本的な治療法ではありません。雑音下や複数人での会話など、環境によっては十分適合した補聴機器を使っても上手く会話ができない場合があります。その時に用いられるのが、前述した会話時の工夫と補聴援助機器です。

補聴器の効果を補助する機器の紹介

講義では補聴機器と接続して使用するもの、補聴援助機器との接続は不要で視覚情報を使用するものなど、いくつか実物を用意し受講者に体験してもらいました。テレビを見るときに便利な機器、複数人・離れた距離での会話に便利な機器はオギジビにも用意があります。使える補聴機器に制限はありますが、ご興味のある方はお声がけください。



絵本オンラインセミナー



昨年引き続き、今年も絵本のオンラインセミナーに参加しました。講師に五味太郎さんを迎えた昨年のオンラインセミナーに関しては、カスタネット通信2023年10月号に書きましたので、こちらぜひオギジビのホームページからご覧ください。今回の「福音館書店2024夏の絵本オンライン講座」は「でんしゃにのってうみにいったよ(こどものとも年中向き 2024年8月号)」の作者、岡本雄司さんが講師でした。



「絵本」というと絵の具やペン、または色鉛筆などで描かれているイメージがありました。でも、岡本雄司さんの絵本は木版で作られているそうです。「描いて・彫って・刷って・切っ
て・貼って」と、絵本が完成するまでの道程が紹介されていました。実際に岡本さんの実演場面を見ましたが、「描いて」といってもラフ画をトレーシングペーパーでなぞって線画にし、それをカーボン紙で木にうつしてようやく第一段階が完了です。

「彫って」「刷って」というところはなんとなく想像できたのですが、色付けは思っていた多色刷りとは少し違いました。列車やバスの色に塗った紙に刷って、切って重ね貼りをしていくという手順でした。見開き1ページが完成するまでに1.5~2カ月かかるそうです。果てしない作業ですね。

絵本は製作を始めるまでにも長い時間がかかっていました。岡本さんは絵本作家になる前は、版画の個展を開いていたそうです。そこにこどものとも編集者が訪れ「絵本に興味はありますか？」とスカウトしたそうです。編集者は岡本さんと話しながら、岡本さんの電車に乗って旅をしたときのワクワク感を入れ込んだら素敵な絵本になるだろうという提案をしたそうです。今までは「風景を切り取っていた」岡本さんが絵本を製作するときに苦労したところは、走っている電車を表現するスピード感だそうです。学生時代から“自分の好きは何か？”と考えていて、「でんしゃにのったよ」で初めて目的地まで旅をしていく楽しさ、時間を描くことができ、達成感を得たと話されていたことが印象的でした。作者から絵本誕生までの話を聞くとまた違った味わいで絵本を楽しめそうです。



オギジビ文庫には「でんしゃにのったよ」もあります。合わせてお読みください。